



## 『お城巡りに思うこと』

三菱電機ビルテクノサービス(株) 常務取締役  
ファシリティ事業本部長

北原 博史



私の勝手な思い込みかも知れないが防犯設備に関わっている方々にはお城好きの方が多いのではないかと思っている。そこでお城巡りファンのひとりとして、このテーマで筆を進めたい。最初にお断りさせていただくが、私は歴史やお城の専門家ではもちろんなく、これまで訪れたお城のパンフレットや案内看板・映画・ドラマ・小説などから得た情報をもとにしていること、私の勘違いや記憶違いもあるかもしれないが、史実や定説と異なることがあっても大目に見ていただきたい。

日本にいっさい城址がいくつあるのかは知らないが、私が今まで訪ねたお城は131城。そのうち百名城は74、続百名城は25なのであまりメジャーでないお城もちょくちょく訪ねていることになる。家族との旅行も城があるところを優先的に選び、ドライブ中に近くに城址があるとつい立ち寄ってしまうという感じで、時々鑑賞を買っている。私が今まで住んできた東京・大阪・伊丹・松山・仙台などにも有名な城址があり城好きにはもってこいの環境であった。

さて、前置きはこれくらいにして本題に入りたい。私が城巡りで好きなのは立派な天守閣や石垣などの遺構を見ることだけではなく、その城であった攻防戦について城主や攻め手の人物像や地形などを想像しながらいろいろ考えてみることである。攻防戦と言えばみなさんもいろいろ思い浮かべる戦いがあるであろう。有名どころでは小説・映画「のぼうの城」の舞台成田氏の忍城、大河ドラマでは「真田丸」などの上田城・大坂城をはじめ「太平記」からは楠木氏の千早城、「太閤記」からは水攻めの備中高松城、兵糧攻めの鳥取城、幕末ものからは戊辰戦争での会津若松城などなど。また天守閣が現存する弘前・松本・犬山・丸岡・彦根・姫路・備中松山・松江・丸亀・高知・松山・宇和島城などのように乱世以降に建てられたなどして大規模な攻防戦を経験していない城も多い。

また、落城にまつわる悲話も、柴田勝家とお市の方の北庄城、白虎隊の会津若松城、少年隊の二本松城、島原の乱の原城、他にも九戸城・八王子城・八上城・高遠城・鉢形城など枚挙にいとまがない。なかには街中に城址の碑が立っているだけのものもあるが、八王子城や九戸城のように今でもそういう伝説を彷彿させる雰囲気が残っている城址も多い。

それでは難攻不落の城というとどこを思い浮かべるであろうか。大坂冬の陣・夏の陣と二回徳川家康と戦った大坂城(この前身の石山本願寺も織田信長の攻撃を跳ね返し続けた)、上杉謙信・武田信玄という戦国時代の両雄も落とせなかった小田原城、上杉謙信が攻めあぐねた七尾城、それから強固な守備構造を持つ姫路城・月山富田城・熊本城などであろうか。

では、実際に攻められても落城したことのない城はというと判断が難しい点もあるが、西南戦争を耐え抜いた熊本城、真田氏が徳川勢を二度にわたって撃退した上田城、のぼうの城の話以前にも上杉・北条の戦いに耐え抜いた忍城、毛利元就が尼子勢を退けた吉田郡山城、大友対島津の戦いで持ちこたえた岡城などがあげられる。余談であるが上田城内の神社のお札は「落ちないお守り」として受験生に人気があるそうである。

近頃天空の城として人気の竹田城は行ってみるといかにも難攻不落のたたずまいではあるが、実戦では秀吉の弟羽柴秀長の攻撃に意外にも3日ほどで落城してしまったそうである。千早城は楠木正成の奇策によりわずかな城兵で鎌倉幕府の大軍をくぎ付けにしたが、その後の南北朝の戦いではあっさり落城している。やはり、城は名将あっての名城なのか。私が今まで訪ねたなかで支城との連携や地形を活かした縄張りなどの城としての機能が光ると思っている城の代表格として月山富田城について触れたい。一族の結束で尼子氏の大軍から郡山城を守り切った毛利元就も尼子氏の本拠月山富田城攻略には手を焼いている。大内氏に従って参戦した第一次月山富田城の戦いでは敢え無く敗退、命からがら逃げ帰っている。毛利元就が大内氏を滅ぼした後、主役として向かった第二次月山富田城の戦いでは3年程の苦労の末、調略も効を奏したのか尼子氏内の結束の乱れに乗じてやっと陥落させた。後年の中山鹿之助らによる尼子再興を目指した戦いでは攻守交替して、毛利方が月山富田城に籠城しなんとか守り切っている。実際に現地に立ったとき、私はこれらの戦いに思いを馳せ月山富田城の要害としての機能の高さに感銘を受けたのだが、戦乱の時代が終わり、松江藩主となった堀尾氏は城下町つくりや通商に向かない月山富田城を廃城とし、松江城を築いて移ってしまったと聞いて大変もったいない気がしたのは個人的な感傷と言わざるを得ないのか。お城の機能も軍事的なものから街のシンボル的なものへと移って行ったことなのだろう。

私が高校時代を過ごした愛媛県松山市の松山城は幕末のペリー来航の翌年に天守閣を再建しており、天守現存12城で一番新しい天守閣ということになるが、再建理由がいろいろ混沌としてきた世の中で藩民を元気づけるためだったという説があるくらいである。確かに松山に住んでいた時は街の真ん中にある城山にどっしり建っている天守閣の姿に元気をもらった気がする。

このように地の利を活かした縄張りや周辺の支城との連携等による機能面が優れていて難攻不落といわれた城でも、逆に支城の寝返りや内通者の存在等により傍く落城してしまったものもある。一方、優れたリーダーや軍師による適格な状況判断に基づく采配と組織の結束で難敵を跳ね返した城もある。当時のことに思いを馳せながら城巡りをするのが私の一番の楽しみであるし、また、姫路城のように実際の戦いはなかったが、本丸に向かう過程で幾重にも張り巡らされた防御のしくみを目の当たりにしながらいろいろ想像を巡らせるのも楽しみのひとつである。

お城巡りについての私なりの楽しみ方について述べてきたが、楽しみ方は人それぞれであることは言うまでもない。

最後に、難攻不落の城ランキングで常に上位に選ばれる熊本城についての有名なエピソード、西南戦争で熊本城攻略を目指したが城内侵入すらままならなかった西郷隆盛が語ったと言われる「官軍に負けたのではない。清正公に負けた。」に私は西郷さんへの愛着と加藤清正への憧憬を憶えるものである。清正公のように時を超えて通用するような仕組みづくりに、防犯設備・セキュリティシステムに関わる仕事をしている一員として努力していきたいと思う次第である。